

寒さもやわらいできましたが、新型コロナウイルスの感染予防で自由に外出できない日々をお過ごしではないでしょうか？ テレビで病氣や病院の話題を目にしない日はありません。これを機会に家族や自分自身のエンディング「看取りについて」考えてみませんか？



〈看取りとは〉

近い将来死が避けられないとされた人に対し、身体的苦痛や精神的苦痛を緩和・軽減するとともに、人生の最期まで尊厳ある生活を支援することです。

〈病院と施設の看取りの違い〉

病院は終末期医療で点滴や酸素吸入、胃ろうから栄養を摂る、人工蘇生などの医療的ケアを中心としています。施設の看取りは食事や排泄の介護、床ずれの予防など日常生活ケアが中心となります。



〈自宅で看取るために必要なこと〉

- ・本人と家族が共に「自宅で最期を迎えたい」という意思があること。
 - ・在宅医や訪問看護などの医療チームの体制が整うこと。
 - ・家族や介護サービスによる介護力があり、24時間体制で支えることができること。
- ※ケアマネジャーと在宅医を見つけることから始めると良いと思います。

〈施設での看取り〉

施設の看取りを行なっている所が増えていきます。入所している方は馴染みの職員が苦痛が少ないように体の向きを変えたり、食べやすい食事形態を考えて常に寄り添ったケアで本人や家族を精神面からもサポートしています。嘱託医の先生にも家族の代わりに連絡を取り 本人・家族の希望を伝えています。

～編集後記～

病院でなくても施設・自宅でも最期を迎えることができるので、いざという時に慌てないように「どこで最期を迎えるか」家族で話し合い、準備をしてもらえると良いと思います。核家族化により相談できる人が身近にいない人も増えていきます。私達も力になればと選んだテーマでした。

次号もお楽しみに！



Gimeien

特別養護老人ホーム
義明苑
看護連携委員会